

# 日本経済・産業再生の視座

（二財）日本総合研究所会長  
寺島 実郎

- \*『エコノミスト』の新年展望と日本
- \*1994年が日本のGDP世界シェアの頂点
- \*先行きも目立つ日本の相対的低速
- \*10年後のGDP見通しへの大疑問
- \*迫られる工業生産力モデルからの転換
- \*追求すべきファンダメンタルズは何か
- \*「新しい資本主義」について考える
- \*3つの資本主義の相関と緊張
- \*日本の弱点は総合エンジニアリング力の欠如
- \*競争を通じた切磋琢磨の重要性



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）  
今年も今日が最後の講演会になりました。いつものように、皆さんご存じの寺島さんにおいでいただきました。ご紹介の必要もないかもしれません。

けれども、寺島さんは1947年のお生まれで、早稲田大学の大学院修了後、三井物産に入社され、ワシントン事務所長、それから戦略研究所の所長をされ、現在は財団法人日本総合研究所の理事長と戦略研究所の会長を兼務されておられます。

いつものように世界の情勢を読み解くと同時に、日本の置かれている現在の状況をどう考えたいか、これから日本の再生の道をどう考えていったらいいか、そういったことを中心に、来年にわれわれの目を開かせていただけるお話

をうかがえると思います。それでは寺島さん、よろしく願いいたします。（拍手）

## 『エコノミスト』の新年展望と日本

**寺島** この経済倶楽部は、先ほどお話を改めてうかがっていたら、1931年にスタートされていて90年だというわけですね。しかも、すごいと思うのは、今データリズムと言われている時代で、1931年からのそのとき話した人たちの内容がデータとして、コンテンツとしてしっかり東洋経済が保存しているというのがすごいと思います。

私も、もうたぶん10年以上、定点観測のようにこういう形で時々参上しているわけですけど、要するに、そのとき行き当たりばったり